

向山塗料 S D G s の取り組み の報告

2023年度（1月～12月）の各部門とチームごと、活動の目的と動機、活動の報告です。

2024/1/17

行 動	目 的	動 機	S D G s の使い方	活動報告
1 軽油・ガソリンの使用量の削減	<ul style="list-style-type: none"> ・コスト削減 ・C o 2 削減 ・化石燃料の使用削減 	温暖化防止への取り組み 効率化を図り、無駄をなくす	従業員の省エネ意識をS D G s 活用を通じて改善する。 無駄な燃料消費を減らし、効率化を図ることで 気候変動への対策とする。	ガソリン : 前年度比 2%減らすことが出来ました。 軽油 : 前年度比 ±0%でトータルでは変わりませんでした。 ガソリンの消費量は2%削減することが出来ました。軽油を使うトラックを使用する頻度が多かった 為、前年度と変わりませんでした。
2 電気使用量の削減	<ul style="list-style-type: none"> ・コスト削減 ・C o 2 削減 	温暖化防止の取り組み 無駄をなくす	従業員の省エネ意識をS D G s 活用を通じて改善する。 無駄な電気の使用を減らし、エネルギー消費を減らす。	電気使用量について 200V 前年度比 2%(252k w) 増えてしまいました。 この電気は主に空調機で使用しており、気温等の影響を受けて、使用時間が長 くなってしまった。On-O f f をこまめにコントロールするなど、管理に力を入れたい。 100V 前年度比 3% (219K w) 削減させることが出来ました。
3 廃棄物の削減	<ul style="list-style-type: none"> ・資源の有効活用 ・化石燃料の使用削減 	資源の有効活用 再利用・分別	従業員の“モノ”に関する考え方をS D G s を活用して改 善する。持続可能な消費形態の確保。再利用の促進。	ゴミの分別回収を継続し、紙ごみは甲府商工会議所で行っている回収へ依頼する。 段ボールは田丸さんに依頼し、回収してもらっている。ビニール類・ペットボトルに関してはも 田丸さんに依頼している。 塗料の空缶などは日東金属さんに引きとってもらっている。 運送屋さんに依頼して、なるべくビニール等を使わないように依頼するとともに、 荷物を固定する為に使ったビニールや段ボールは持ち帰って頂く様に依頼している。
4 遮熱塗料の販売	<ul style="list-style-type: none"> ・エネルギー消費の削減 ・建築物の保護 	温暖化防止の取り組み 遮熱塗料の拡販	遮熱塗料の塗装により、エネルギー消費量の削減 健康的な生活・建物の保護	2023年度の販売目標缶数610缶に対して販売は520缶（達成率85%）でした。 近年、工場などの大規模施設の屋根や壁だけでなく、住宅の塗替えの際にも「遮熱・断熱」 塗料が使われるケースも増えてきています。温暖化の影響で暑いシーズンも長くなって いることから、温度を下げる働きのある塗料の販売に注力していきます。
5 自然塗料の販売	<ul style="list-style-type: none"> ・石油起源塗料の 使用量削減 ・建築物の保護 	植物由来の塗料を使うことで持続 可能な生産消費形態の確保	石油原料の削減によるエネルギー消費量の削減 健康的な生活・建物の保護・循環型	2023年度の販売目標1076Lに対して実数は1049L（達成率98%）でした。 自然塗料は植物油由来の塗料となっており、有機溶剤などの原料を極力使っていない ことから健康住宅などのこだわりのある建物の木部に使用されています。 次年度も引き続き、石油原料由来の木部塗料を自然系の塗料に切り替えてもらえるように 広報活動を続けながら、拡販に努めていきます。
6 ペレットの販売	<ul style="list-style-type: none"> ・森林資源の有効活用 ・再生可能エネルギーの使 用 	地域循環型社会の構築	森林資源を熱源としたストーブ燃料 森林資源の循環（木の活用→植林）	2023年度はペレットストーブを2台販売しました。 また、ペレットの販売も継続しています。
7 塗料の水性化	<ul style="list-style-type: none"> ・石油起源塗料の 使用量削減 ・建築物の保護 	溶剤塗料から水性塗料への転換を 図る	溶剤塗料の削減による石油原料の削減 水性化による大気への影響の削減 人体への影響を削減	建築用塗料は、メーカーも水性化を促進していることから、屋根用・壁用問わず、ほぼすべてで水性 塗料もラインナップされています。ただ、寒い時期や鉄部塗料などに関しては、まだ油性塗料の方が 相性がいいケースもあります。 最近ではバイオマス由来成分を含有した塗料や、製造工程でのC o 2 排出量を抑えた塗料など、今ま でなかったタイプの塗料がはじめています。

8	ペーパーレス化	・紙資源の削減	紙資源の使用を減らし、デジタル化	無駄な紙資源の削減 デジタル化により、紙を使わないようにする	裏紙を使用するなど、引き続き無駄を減らし、紙の使用を減らすことを意識します。
9	ゴーヤネット	・植物による庇	日影をつくって室内の温度上昇を抑える 作物の生産	室内の温度上昇を抑え、空調機の使用量削減 ゴーヤを食べる 緑化活動	毎年5月下旬に植えていましたが、今年は早く植えました。ただ、成長も早いかと思いきや、育成が悪く枝葉が伸びたのは梅雨明けくらいからでした。次年度は品種を変えてチャレンジします。
10	COOL・WERM BIZ	・エネルギー使用量の削減	服による調整	空調機の使用量を服の調整によって削減する	ヒートテックなどを奨励した。

SDGs活動チーム

	チーム名	テーマ	活動内容	活動報告												
	KYT	1.遮熱・断熱塗料の拡販 2.遮熱フィルムの研究	1.体感できることに塗ってみる。効果を測定する。 2.遮熱フィルムについても実際に施工してみても効果を測定する。	1.弊社倉庫2号棟に、菊水ガイナ(ホワイト・N-30)を塗装し、実際に表面を触って温度を体感してもらい取り組みをしました。 <table border="0"> <tr> <td>外気温36℃</td> <td>2号棟 ガイナ塗布面温度</td> <td>3号棟 通常壁面</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>ホワイト 33℃</td> <td>クリーム腰上色</td> <td>38℃</td> </tr> <tr> <td></td> <td>N-30(グレー色)35℃</td> <td>グレー腰下色</td> <td>39℃</td> </tr> </table> 以上の結果よりガイナを塗布した面の表面温度は約4℃程、通常壁面より低い温度を測定する事ができました。 2.遮熱フィルムを調色工場のがラス施工、西日が入り調色用の塗料の劣化を防止、室内温度上昇を軽減させ、エアコンによる化石燃料の削減を目的としました。	外気温36℃	2号棟 ガイナ塗布面温度	3号棟 通常壁面			ホワイト 33℃	クリーム腰上色	38℃		N-30(グレー色)35℃	グレー腰下色	39℃
外気温36℃	2号棟 ガイナ塗布面温度	3号棟 通常壁面														
	ホワイト 33℃	クリーム腰上色	38℃													
	N-30(グレー色)35℃	グレー腰下色	39℃													
	クリーンムコ	1.会社周辺の清掃活動 2.女性の活躍会社	1.小瀬スポーツ公園などの施設の周辺清掃を行う。 2.弊社に勤めている女性3人の感性や考えを聞き取り、店舗の改善や働きの方の改善につなげる	1.年4回、場所を決めてゴミ拾いを行う。 6月 会社前通りゴミ拾い・草取り 6名 9月 公園周りゴミ拾い・草取り 6名 10月 けやき通り ゴミ拾い 6名 12月 会社近くの草取り 6名 2.女性社員とのコミュニケーションを図り、悩み事を聞く。 地域・社会貢献に対して、引き続き清掃活動を通じて住みやすい街づくりを続けていく事。 社会貢献として幼稚園の遊具を子供たちと塗ったりする活動もやってみたいと思いました。 女性活躍に関しては、今年度はあまり実施ができなくて終わってしまった為、次年度は、新リーダーに新しい考え方の方針で引き続き行動していただきたいと思いました。												
	MPライフ	1.健康・生きがい 2.高耐候塗料の拡販	1.社員の健康管理の為、体力測定などを定期的に行い、健康維持に努める。 また、健康経営の取組についても研究する。 2.高耐候塗料について、各社の材料を比較し、「11.住み続けられるまちづくり」の一助になれるように研究し、お客様に提供する。	1.定期的な体力測定を実施しましたが、今年度は2回しか実施出来ておらず、年4回は実施するべきだと感じました。 健康経営についても必須項目がいくつかある為、実施できる内容に関しては今後の取り組みに繋げていきたいと思いました。 2.高耐候の自社オリジナル商品の拡販についてはお客様に対してPRや資料の配布など行いました。 それ以外の既存の高耐候塗料に関しては、社員が活用でき、お客様が一目見てわかる早見表などの作成をこれから作成していきます。												
総括: 各部門の活動は20年以上続けている取り組みもあり、マンネリ化している活動もある為、SDGs委員会で見直しを図って行きます。 電気や燃料の使用量の削減も長い続けている取組なので大きく変わることはありませんが、担当者の声掛け等を通じて少しでも減らせるように活動を続けています。 遮熱塗料は住宅等の塗替えの際の付加価値として提案を進めています。塗料表面の温度が下がることで建物への負荷も削減し、室内に侵入する熱量も抑えることが出来ることから、引き続き拡販に努めます。 自然塗料に関しても木部の新設や塗替えの際に、自然由来の原料を使った商品を使って頂けるように提案していきます。 各チームの活動も、2年間としたことで継続した取り組みができ、成果を得ることができた部分もありました。ただ、女性の活躍会社の部分は活動がうまくできませんでした。弊社の女性社員とのコミュニケーションも、会議の時間や労働時間の問題もあり、タイミングが合わないことが多かったです。また、男性のお客様が多いことから、女性視点での商品展示についても、勉強しなければいけないことが多々ありました。																